

吹田市教育研究大会報告

平成24年9月24日

吹田市教育研究大会
事務局発行

8月8日(水)に全体講演会、8月28日(火)に分科会と今年度は2日に分け、第6回目となる吹田市教育研究大会を実施しました。「今 吹田から 未来(あす)の力を ～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」を大会テーマとして、全体講演会を大阪学院大学で、分科会をメイシアター及び勤労者会館にて開催いたしました。分科会を行った28日は、小・中学校とともに午前中授業をした後の半日開催でしたが、7つの分科会に分かれ、現場からの発信を中心に各会場で「授業づくり」「授業改善」をキーワードに学びを深めました。吹田市内幼稚園、小・中学校の教職員、保護者延べ**1583名**の参加をいただきました。分科会では多くの吹田市内の学校園の実践を共有することができました。

多数の皆さんの参加のもと、実践報告、さらに会のスムーズな進行においてもご協力いただき、ありがとうございました。今年度は、多くの現場の教職員の方が分科会の報告者やパネリストとして、また当日のスタッフとして大会の運営に参画いただいたこと、府の学力テストの結果見えてきた課題からこれからの授業について5つの授業改善プロジェクトから提案があったことなどが特筆されます。また、アンケートによる意見や感想を、次年度以降の企画・運営に生かしていきたいと思います。研究大会の皆さんからのアンケート集約の一部と、全体会（基調講演）・各分科会等の様子を紹介します。

(以下◆は参加者の感想です。)

参加者アンケート結果

分科会／全体会	参加人数	アンケート回収数	アンケート回収率	アンケート集計			
				とても良かった	良かった	余り良くなかった	良くなかった
全体講演会	251	202	80.5%	66.8%	29.2%	1.0%	0.0%
A. 園・校内研究の活性化をはかる	105	58	55.2%	36.2%	62.1%	1.7%	0.0%
B. 国際社会の中で生きる力を育む ー元気アッププランー	147	69	46.9%	22.1%	64.7%	8.8%	4.4%
C. 道徳教育を通して豊かな心を育む	151	85	56.3%	53.0%	39.8%	4.8%	2.4%
D. 思考力・表現力を育む授業づくりー言語活動を意識した授業づくりー	274	139	50.7%	22.6%	74.5%	2.9%	0.0%
E. 思考力・表現力を育む授業づくりー理数教育を中心にー	236	135	57.2%	12.5%	77.3%	8.6%	1.6%
F. 体験的活動を通して生きる力を育むー表現活動を中心にー	145	79	54.5%	47.4%	51.3%	1.3%	0.0%
G. 豊かな心を育む子育て支援(保護者参加)	教員	480	191	39.8%	50.5%	45.2%	2.7%
	保護者	45	18	40.0%	72.2%	27.8%	0.0%
合計 / 平均	1834人	976	53.2%	42.6%	52.4%	3.5%	1.1%

(分科会 1583人 774 48.9%)

全体講演会

(8月8日 大阪学院大学にて開催)

【講演】「今、子どもたちに必要なコミュニケーション力を育むために」 大阪大学コミュニケーションデザインセンター 教授 平田 オリザ 先生

分科会とは別の日に開催された全体講演会では、大阪大学の教授であり劇作家・演出家でもある平田オリザ先生に「今、子どもたちに必要なコミュニケーション力を育むために」と題して、講演いただきました。教育の分野で求められている「コミュニケーション力」について、演劇の手法を取り入れたワークショップでの子どもの姿から、また社会的な背景もふまえたお話をいただきました。「子どものコミュニケーション力は低下しているか」「今求められているのは、異文化間コミュニケーション＝対話すること」など、今までの見方を変えることで気づいたり、ふと考えさせられたり、大変示唆に富んだ講演でした。



◆子どもたちの実態を改めて正しくとらえ直すことができました。これが大きな収穫でした。◆今求められていることを自分自身しっかりと捉え、子どもたちに接するときに、何を大事にしていくのか考えていきたいと思いました。◆今後の自分の保育への姿勢について考えるとともに、自身の子育てについても考えさせられる、とても貴重な話を聞くことができました。◆コミュニケーションの楽しさを感じさせてあげるような教育を考えることの大切さを学びました。能力を引き出していくよう努力したいと思います。◆子どもたちがそれぞれの役割を楽しんで演技できる力を育んでいきたいと思いました。「目からウロコ」のおもしろい内容でした。◆「子どもの表現を待つ」という言葉が印象に残りました。言えないこと、居ないことも表現ととらえる(概念として)ことが、何か安心感を覚えました。

分科会

(8月28日 メイシアター及び勤労者会館にて開催)

テーマ「今 吹田から 未来(あす)の力を ～地域に根ざした質の高い公教育の創造～」

A分科会 園・校内研究の活性化をはかる

A分科会では、小中一貫教育校である千里みらい夢学園の取組報告、古江台幼稚園の園内研修の研究報告、藤白台小学校・第五中学校の校内研修の研究報告がありました。それを受けて関西大学の山住 勝広教授より指導助言をいただきました。幼稚園・小学校・中学校それぞれの校内研究について理解することが、11年間を見通した一貫教育につながることを再確認することができました。



◆授業研究、努力目標等研究会の進め方の具体的な取り組みを知ることができて、とてもよかった。◆研修がより充実したものになるための様々な具体的な手立てを聞くことができ、勉強になった。◆「継続は力なり」ということを実感した。◆中学校では教科の壁があると思っていたが、第五中学校の取組を聞き、教師の意識の違いなのかなと思った。◆小中一貫校がどんなことをしているのか、よくわかった。◆講師の先生の講演がよかった。野村芳兵衛氏の「自分達が自分達を教育することが学習です」といわれたことがとても印象に残った。

B分科会 国際社会の中で生きる力を育む一元気アッププラン

B分科会では、英語教育研究グループの報告、授業改善プロジェクト（中学校英語）の提案、今年度の元気アッププラン(上海・韓国)の報告、最後は元気アップリーダーによるパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、今年最終年度を迎えた元気アッププランの集大成として、事業のスタートからこれまでの海外派遣研修先「ニュージーランド」「フィンランド」「オーストラリア」「カナダ」に参加した教職員が、「海外から学ぶ」ことをテーマに各国の教育の取組から、日本の教育のこれからを考えることができました。



◆元気アッププランの報告や、元気アップリーダーのパネルディスカッションで、世界各国の教育状況を知ることができて、とても興味深かったです。外国の良いところと同時に、吹田の良いところも再認識できました。◆他教科の授業改善の工夫、隣国の教育現場の報告ともに刺激になりました。◆先生方、それぞれが授業・生徒を大切に、教材研究、資料作りに時間を費やされていることに頭がさがりました。◆日本よりICT活用が発達していて、日本でももっと取り入れることができると勉強の幅が広がると思います。日本と違う視点に力を入れている点は学ぶところがたくさんありました。

C分科会 道徳教育を通して豊かな心を育む

C分科会では、道徳教育を中心に人権教育や情報モラルの取組報告がありました。岸部第一小学校は、人権教育の「なかまづくり」の実践について、また情報教育・ICT活用研究グループからは、昨年度行った情報モラルの授業について報告がありました。道徳教育の実践報告としては、小学校・中学校の教育研究会道徳部より、西山田小学校、西山田中学校より授業実践の報告がありました。最後に、「心を育む」と題して貝塚市教育委員会の川崎 雅也 参事よりご講演いただきました。子どもたちの豊かな人生につながる道徳教育について、大変情熱的にお話いただきました。

◆各校の道徳授業の実践が少しわかった。様々な教材、多角的な切り口から自分たちの豊かな人生に結びつけられることに改めて気付いた。◆道徳で何をどう伝えていくべきなのか、自分の中で整理できました。「自分のあり方・生き方が生徒に伝わる」この言葉が心に残りました。◆人の心の潜在力を引き出すためにどうすることが大事かということ学んだ。常に自分を耕し、より豊かななるために学ぶということをやっと大切にしていきたいと思います。自分の生き方をしっかり見せられる一人の人間として生きていきたいと思います。



D分科会 思考力・表現力を育む授業づくりー言語活動を意識した授業づくりー



D分科会では、吹田市委嘱研究校の吹田南小学校の実践報告、小学校教育研究会社会科部の研究報告、同じく小学校教育研究会国語部の模擬授業での提案、また授業改善プロジェクトの中学校国語と小学校国語からの提案と、5つのグループから「思考・表現・言語活動」をキーワードに発表がありました。どの報告も、今後の授業実践に活用できる具体的な提案がありました。その後、指導助言として大阪府教育センターの戸出 克彦 指導主事よりお話いただきました。

小・中のつながりを意識し、系統的に指導していくことの大切さについて、校種をこえて共有することができました。

◆いろいろな実践を聞くことができ、自分の取り組みを見直し、考える機会となった。今後の授業づくりや教材研究に生かしたい。◆小・中の実践をお聞きし、保育において、言語活動の充実のためのヒントがありました。「つけない力」を教材「で」、教材「を」指導するのではない…幼稚園の教育と通じるものだと思います。◆言語活動というと国語の授業というイメージだったが、社会の授業も知ることができよかった。◆授業改善プロジェクトグループの発表に、なるほどと思いました。思考・表現に課題があるからこそ、そこを日々の学習のなかでどうしていくのかが示されていて勉強になりました。◆「書くこと」「小論文」について、中学校の先生が課題とされていることや、目標、そのための手だてをお聞きすることができました。このことを意識して、言語教育に取り組んでいきたいと思いました。

E分科会 思考力・表現力を育む授業づくりー理数教育を中心にー

E分科会では、はじめに理科教育研究グループから研究報告、小学校算数・中学校数学の授業改善プロジェクトチームから府の学力テストから見えてきた課題から授業改善へつなげる視点で授業提案、また小学校教育研究会算数部より『考え』『つくる』学習をめざす効果的な学習具の活用について研究報告がありました。その後、高槻市立若松小学校の指導教諭 井上 正人 先生より「活用力を育てる授業づくり」と題して講演いただきました。報告・講演ともに、子どもたち主体の「考える」授業への手がかりになる内容でした。



◆学び合いをさせることが私もとても難しいことだと思っていた、上手くいってなかったりしたのですが、生徒への見通しの甘さによるものなのだなと思いました。◆中学校でも問題解決学習をされているのはすばらしいと思った。◆新指導要領で教授法の転換が図られています。若手の先生中心に研究が進んでいる事を実感しました。◆毎日の授業を考え組み立てていく上で、もう一度立ち止まって考え直す、いいきっかけになった。◆井上先生のお話の中で「見通しを充実させること」「集団脳をつかって解決の見通しを持たせること」など参考になりました。

F分科会 体験的活動を通して生きる力を育むー表現活動を中心にー

F分科会では、豊津第一幼稚園の「体づくり」についての取組報告、小学校教育研究会家庭科・生活科の研究報告、児童文化部のワークショップがありました。また、吹田市でも中学校を中心に演劇指導をしていただいている「SPACEとりつくすたあ」主宰の木村 玩 さんに「演劇づくりを通して生きる力を育む」と題して講演いただきました。大学・高校などでも教えておられるご自身の経験を通して、子どもたちに「生きる力」を育むためのヒントをいただきました。



◆幼稚園の発表にあった“動きの分解”は、どの所属、どの教科でもしっかり意識することが必要だと思うとともに、子どもたちに達成感や自信をもたせるスモールステップを今後もしっかり研究していきたいと思った。◆低学年の生活科と幼稚園の生活とはとても関連性があり、学びの連続性の観点からみても、うまくつなげていきたいと思う。◆幼稚園の体育、家庭科、生活科、学校生活のあらゆる場面でより楽しく子どもたちの学びを深めることができればいいと思った。

G分科会 豊かな心を育む子育て支援(保護者参加)

保護者参加のG分科会は、子ども支援研究グループの報告と、早稲田大学の本田恵子教授による講演でした。子ども支援研究グループは、学校での子どもの見取りや他機関との連携について報告しました。本田先生には、「キレイやすい子の理解と対応 ～学校におけるアンガーマネジメント～」と題してお話いただきました。キレイな子どもの原因や背景と具体的な支援や対応について、ビデオや写真などを通して学ぶことができました。



◆具体的な映像と対応の仕方を見られたことは、どの子どもにも対応できると思い、学びとなりました。ありがとうございました。◆具体的事例をもとに話していただいたのでとてもわかりやすかったです。大人の客観的な視点・立ち位置・ことばかけ・行動（かかわり方）で子どもの行動がかわってくるとトラブルが起こりにくくなることもよくわかりました。◆経験が浅くこんな時どうしたらいいのだろうと思うことが多いのですが、お話の中で「こういう理由でこうなっているので、こうするとよい」と具体例を挙げて頂けてとても参考になりました。◆子ども支援研究グループの方がどういう研究をされているのかわかりました。◆子どもの心理をきちんと理解し、受け止め、受け入れてあげること、できたことへの評価、相手の立場に立った言葉かけ、大切ですね。2学期、たくさん子どもをほめてあげたいと思います。

★詳細は、後日報告集を各学校・園あてに(各学年に1冊程度)送付いたしますので、ぜひご覧ください。